

基本施策 **市街地整備**

◆現況と課題

- これまで人口の増加等を背景に市街地は拡大してきましたが、拡大した市街地のまま人口減少が進むと居住の低密度化を招き、一定の人口密度に支えられてきた医療・福祉・商業等の生活サービスの提供が困難になるおそれがあります。居住機能の誘導を図るとともに、生活サービス施設の維持と各種施設の適切な配置・誘導を図るなど、コンパクトな都市構造への転換を目指す必要があります。
- 地域コミュニティでは、若者世代の流出と高齢化が進んでいます。若者世代の定住促進を行い、地域コミュニティの維持・活性化を図る必要があります。
- 市民意識調査によると、多くの市民が小牧駅周辺は賑わいがなく寂しい、待ち合わせできる飲食店がないと感じています。商業等の都市機能を誘導するため小牧駅周辺のまちの魅力の向上を図るとともに、公共交通機関相互の乗り継ぎを円滑にすることで、交通結節点としての機能を強化します。
- 小牧市の転出超過が進んでいます。市外への人口流出を食い止めるため、また市外から人を呼び込むためにも、都心へのアクセスの良い名鉄小牧線沿線の宅地供給を図る必要があります。

◆基本施策の目的及び状態指標

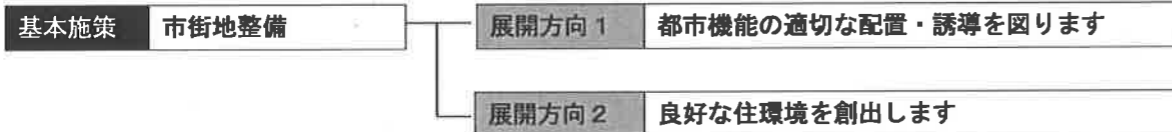
【基本施策の目的：目指すまちの姿】

すべての世代にとって快適な生活環境を実現するため、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えのもと、コンパクトな都市構造のまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
全世代の居住誘導区域内居住率	71.1%	↑
居住誘導区域内人口密度	54.4人/ha	↑
市内鉄道駅の1日平均乗降客数	29,221人	↑

◆基本施策の体系



◆展開方向1：都市機能の適切な配置・誘導を図ります

【目標】

- 小牧駅周辺に集い・滞在し・交流できる空間や居心地の良いやすらぎのある空間を創出します。
- 小牧駅や桃花台センターなどの交通結節点の機能強化を図ります。
- 田県神社前駅西駅前広場北側の公有地を有効活用します。

【手段】

- 官民連携により、小牧駅西駅前広場及び駅東公園の再整備を進めます。
- 小牧駅の乗降場を整備するとともに、桃花台センターのバス停車帯の整備を進めます。
- （仮称）第3老人福祉センター建設にあわせて、田県神社前駅西駅前広場北側の整備を進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
名鉄小牧駅の1日平均乗降者数	10,935人	↑
中心市街地の歩行者・自転車通行量	5,854人	↑
桃花台中心地区の歩行者通行量		↑

◆展開方向2：良好な住環境を創出します

【目標】

- 名鉄小牧線を中心に、良好な宅地を供給します。

【手段】

- 土地区画整理事業による市街地整備を促進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
土地区画整理事業の施行区域内の居住人口	8,736人	↑
土地区画整理事業の施行区域内の道路整備率	81.7%	↑
土地区画整理事業の施行区域内の建築行為申請面積	52.57ha	↑

基本施策

都市交通

◆現況と課題

- 自家用車に過度に依存しないで暮らせるまちづくりのため、民間事業者とともに公共交通機関を維持・存続する必要があります。市内の医療機関・スーパーや名古屋中心部への行きやすさなど、利用しやすい公共交通ネットワークを構築します。
- 公共交通機関の使いやすさには、さらに改善の余地があります。小牧駅や桃花台センターなどの交通結節点において乗り継ぎを考慮したダイヤ設定など、乗り継ぎ利便性の向上を図ります。
- 現在「こまき巡回バス」は、1時間に1本程度の運行間隔とし、バス停は半径約500mを利用圏域としたことで、運行負担金が増大しています。より効率的・効果的なルート・ダイヤ及び料金体系のあり方を検討するなど、持続可能な交通体系を構築します。
- 鉄道駅の利用者数増加により、駅周辺の駐輪スペースが不足しています。鉄道利用者の利便性の向上を図るためにも、駐輪スペースを確保する必要があります。

◆基本施策の目的及び状態指標

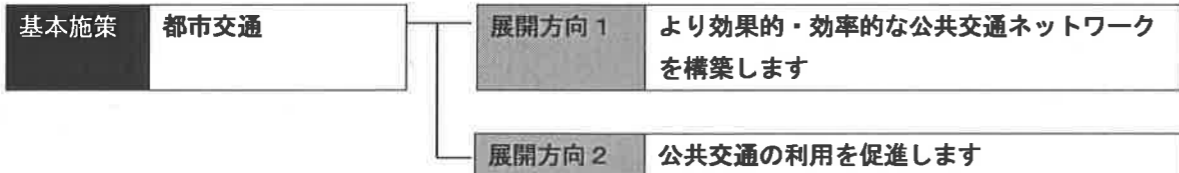
【基本施策の目的：目指すまちの姿】

市民が利用しやすい公共交通ネットワークを構築するとともに、持続可能な交通体系となるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
公共交通機関の1日平均利用者数	42,915人	↑
週1回以上公共交通を利用している人の割合	19.8%	↑

◆基本施策の体系



◆展開方向1：より効果的・効率的な公共交通ネットワークを構築します

【目標】

- 持続可能な交通体系を構築します。
- 交通結節機能の強化を図ります。
- 市民生活を支えるための公共交通サービスを維持します。

【手段】

- より効率的・効果的なルート・ダイヤ及び料金体系のあり方を検討します。
- 小牧駅や桃花台センターなどの交通結節点における乗り継ぎを考慮したダイヤを設定します。
- 乗合バス事業者に対して、経常費用から経常収益等を差し引いた額を補助します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
こまき巡回バスの利用者一人あたり負担額	483円	↓
こまき巡回バスの運行距離1kmあたり利用者数	0.86人	↑

◆展開方向2：公共交通の利用を促進します

【目標】

- こまき巡回バス利用者に対して、正確な情報をわかりやすく提供する体制を構築します。
- 市内鉄道駅周辺の駐輪スペースを確保します。

【手段】

- バスロケーションシステムにより、利用者に正確な情報をわかりやすく提供します。
- 駐輪場内の自転車等の整理及び放置自転車の撤去を行うとともに、新たな駐輪スペースを設置します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
こまき巡回バスの1日平均利用者数	1901.0人	↑
駐輪場の不足台数	62台	↓

基本施策 道路

◆現況と課題

- 特定の区域における通行量の集中や右折帯の未整備等により渋滞が発生しており、市民意識調査でも、渋滞が多いと感じているドライバーが60%を超えています。道路ネットワークの構築、拡幅改良、交差点改良などの渋滞緩和対策を講じる必要があります。
- 自転車利用者の増加、狭い歩道、通学路の一部区間に歩道がないこと等により、自転車利用者や歩行者の危険性が高まっています。すべての人が安全に通行・移動できる道路空間を確保します。
- 橋梁など道路施設の老朽化が進んでいます。定期点検の実施と、計画的な修繕工事を実施します。特に災害時に重要となる幹線道路については、優先的に修繕工事を進めます。

◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的：目指すまちの姿】

渋滞や交通事故がなく円滑・安全・快適に移動できる道路交通環境が整ったまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
渋滞発生箇所数	27箇所	↓
歩行者の交通事故件数	47件	↓

◆基本施策の体系



◆展開方向1：円滑に移動できる道路を整備します

【目標】

- 渋滞対策、狭隘道路対策を進めます。

【手段】

- 計画に基づき、道路ネットワークの構築、拡幅改良となる生活道路の整備を進めます。
- 市道交差点のうち、渋滞対策の優先度が高い箇所の整備を進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
都市計画道路の整備率	77.7%	↑
生活道路の整備率	28.7%	↑
交差点改良の実施箇所数	0箇所	↑

◆展開方向2：歩行者や自転車が安全に通行できる道路を整備します

【目標】

- 通学路歩道整備率を向上します。
- 自転車通行帯を整備します。

【手段】

- 事故発生件数等を参考に優先順位を定め、効率的かつ効果的に整備します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
通学路歩道（歩車分離）整備率	49.9%	↑
自転車通行帯の整備率	0%	↑

◆展開方向3：老朽化する橋梁などの道路施設を計画的に維持補修します

【目標】

- 幹線道路に架かる重要橋梁と横断歩道橋を、計画的に耐震補強するとともに、定期点検を実施します。

【手段】

- 長寿命化修繕計画に沿った修繕工事を着実に実行します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
重要橋梁の長寿命化修繕工事の進捗率	12.5%	↑
横断歩道橋修繕工事の進捗率	27.3%	↑

基本施策

上下水道

◆現況と課題

【上水道】

- 小牧市における水道普及率は99.9%(平成29年度末)となっています。水道施設は老朽化が進んでおり、今後も修繕及び更新を計画的に進めていく必要があります。
- 南海トラフ沿いの大規模な地震の発生が懸念されます。震災時の被害を最小限にとどめるための対策が必要です。
- 人口減少などによる水需要の減少に伴い、給水収益の減少が予測される中、安定した経営を維持することが求められます。

【下水道】

- 小牧市における下水道普及率は74.4%(平成29年度末)となっています。衛生的で快適な生活環境を確保するため、今後も計画的かつ効率的な整備を推進する必要があります。
- 下水道施設の老朽化に備えるため、計画的な維持管理、長寿命化を図る必要があります。
- 人口減少などによる使用料の減少や設備の老朽化に伴う更新投資の増大が想定されます。公営企業会計への移行により経営状況が明確になることによって、持続可能な事業運営となるよう経営基盤の強化が求められます。

◆基本施策の目的及び状態指標

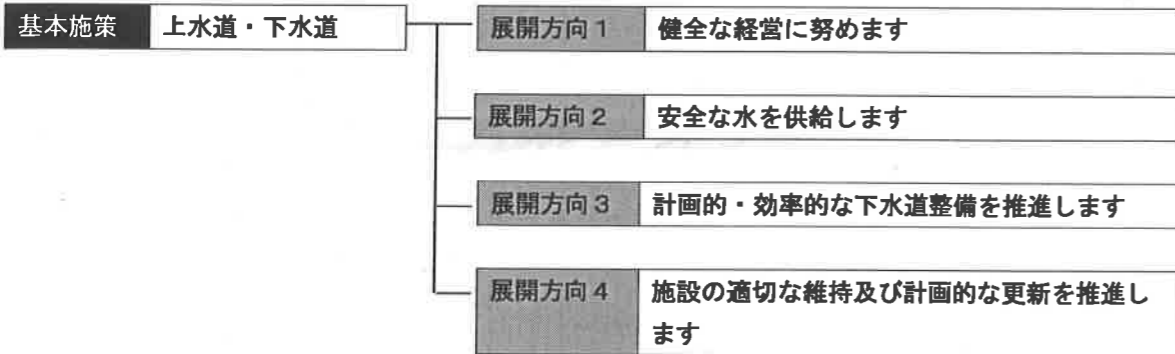
【基本施策の目的：目指すまちの姿】

安全な水道水を安定的に供給するとともに、河川や水路などの公共用水域の水質を保全することにより、快適に暮らせるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
基幹管路の事故割合（水道事業）	0件/100km	→
公共下水道接続率（下水道事業）	68.0%	↑

◆基本施策の体系



◆展開方向1：健全な経営に努めます

【目標】

- 持続的、安定的な事業運営に努めます。（上下水道共通）

【手段】

- 水道料金や下水道使用料などの収益確保に努めるとともに一層の経営効率化に取り組みます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
経常収支比率（水道事業）	114.7%	100%以上
経常収支比率（下水道事業）		100%以上

◆展開方向2：安全な水を供給します

【目標】

- 国が定めた水道の水質基準を満たし続けます。（水道事業）

【手段】

- 水安全計画に基づき、水質管理体制の徹底を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
水質基準不適合率	0%	→

◆展開方向3：計画的・効率的な下水道整備を推進します

【目標】

- 公共下水道の整備率を高めます。（下水道事業）

【手段】

- 計画的に公共下水道の整備を進めます。
- 事業説明会の開催や未接続世帯への啓発を実施します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
公共下水道整備率	58.3%	↑
水洗化人口	115,391人	↑

◆展開方向4：施設の適切な維持及び計画的な更新を推進します

【目標】

- 地震等の災害に強いライフラインを構築します。（上下水道共通）

【手段】

- 施設の機能維持、長寿命化、耐震化を費用の平準化に留意しながら進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
配水管の耐震管率（水道事業）	22.2%	↑
下水道施設故障件数（下水道事業）	0件	→

基本施策 河川・水路

- ◆現況と課題**
- ゲリラ豪雨のような予め予測できない短時間での記録的豪雨が頻発しています。近年浸水している区域の整備を進める必要があります。
 - 河川整備は、排水先河川の管理者である国や県の整備と同調して実施する必要があります。国や県の整備状況を注視しながら、効果的な整備を進めます。
 - 都市型水害対策として、公共施設への貯留施設の設置を進めています。今後も、近年の浸水状況を考慮しつつ、効果的な整備を進めます。

◆基本施策の目的及び状態指標
【基本施策の目的：目指すまちの姿】

大雨による浸水被害のないまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
床上、床下浸水の被害戸数	111戸	↓

◆基本施策の体系



◆展開方向1：浸水区域を解消します

- 【目標】**
- 準用河川の整備を進めます。
 - 雨水整備区域の整備を進めます。
- 【手段】**
- 「新川流域水害対策計画」に基づき、県管理の河川等に流入する準用河川および雨水排水路の整備を進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
準用河川の整備率	23.6%	↑
雨水整備区域の整備率	6.5%	↑

◆展開方向2：河川への雨水流出を抑制します

- 【目標】**
- 雨水貯留施設の整備を進めます。
- 【手段】**
- 「新川流域水害対策計画」に基づき、新たな公共施設や既存の公共施設の用地を利用することで、効果的に雨水貯留施設の設置を進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
雨水貯留施設整備の進捗率	63.2%	↑

基本施策 公園・緑地・緑道

- ◆**現況と課題**
- 高齢化や健康志向の高まりにより、公園に対するニーズが多様化しているとともに、維持管理の担い手となる地域住民が高齢化しています。企画段階から地域住民が参加するワークショップを開催することで、地域住民が果たすべき役割の意識付けを図るとともに、多様なニーズに対応できる公園を整備します。
 - 昭和 50、60 年代に設置した都市公園施設の老朽化が進行しています。公園利用者の安全性や快適性を確保するため、計画的に補修工事や更新工事を実施する必要があります。

◆**基本施策の目的及び状態指標**

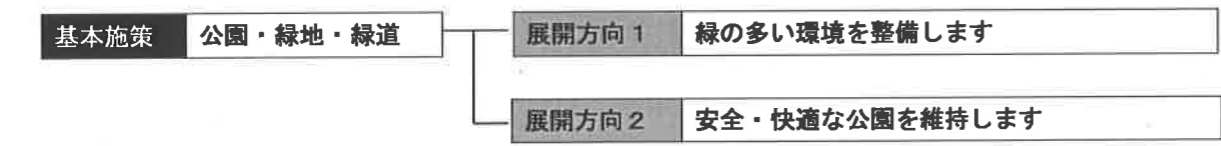
【基本施策の目的：目指すまちの姿】

安心で快適な公園整備をすすめ、緑とやすらぎのある美しいまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
緑被面積	2759.9 ha	↑

◆**基本施策の体系**



◆**展開方向1：緑の多い環境を整備します**

- 【目標】
- 多くの市民が身近に緑とやすらぎを感じることができる環境を整備します。
- 【手段】
- ワークショップ等を通じて地域住民のニーズを踏まえながら、地域住民に親しまれる公園・緑地・緑道を整備します。
 - 民間企業の緑化推進を促進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
都市公園の整備率	95.0%	↑

◆**展開方向2：安全・快適な公園を維持します**

- 【目標】
- 利用者が安全・快適に過ごせるよう公園施設を維持します。
- 【手段】
- 公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した施設の補修・更新工事を行うとともに、管理委託団体との連携により日常管理を持続します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
公園管理者の過失による事故件数	0件	→

基本施策 住宅

- ◆現況と課題**
- 東日本大震災以降も全国各地で大規模な地震が発生しているにも関わらず、住宅の耐震化に関しての市民の関心は高まっていません。南海トラフ巨大地震等が発生した際は、本市においても被害が想定されているため、市民に住宅の耐震化の重要性を認識してもらう必要があります。
 - 耐震化住宅への改修が必要な住宅の所有者の多くは60歳以上の高齢者です。高齢者でも目にする機会が増えるような啓発が必要です。
 - 市営住宅の入居者のうち、福祉世帯の割合が年々上昇しています。人にやさしい住宅とするため、市営住宅のバリアフリー化を進める必要があります

基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的：目指すまちの姿】

地震をはじめとする災害に強く、良質で人にやさしい住宅をストックすることで、安全・安心なまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
新築住宅のうち長期優良住宅認定住戸の割合		↑

◆基本施策の体系



◆展開方向1：安全・安心な住宅の整備を進めます

- 【目標】**
- 耐震化住宅を増やします。
- 【手段】**
- 耐震診断の結果、耐震化が必要と診断されたが、耐震改修を実施していない住宅を戸別訪問することで耐震改修を促します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
民間木造住宅耐震改修費等補助件数		↑

◆展開方向2：人にやさしい住宅を供給します

- 【目標】**
- 市営住宅をバリアフリー化します。
- 【手段】**
- あらゆる世帯が快適に生活できるよう市営住宅のバリアフリー化を進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
福祉世帯の入居率		↑

◆展開方向3：若年層の定住を促進します

- 【目標】**
- 子育てに対する不安や負担を軽減して、若年世代の定住を促進します。
- 【手段】**
- 新たに三世帯同居もしくは近居をするための住宅の新築、購入などにかかる経費の一部を補助します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
三世帯同居・近居住宅支援事業による定住者数		↑